



2020年7月発行

LETTERS

公益財団法人
佐倉国際交流基金

〒285-0025
佐倉市鏑木町198番地2
TEL・FAX 043-484-6326

新型コロナウイルス感染下の日本語学習支援

現在、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、「3密」をさけることが推奨されています。そのための対応に日本中が苦慮していますが、SIEFの受託事業のひとつである「日本語講座」はどのような運営をしているのか、今村運営委員長に聞きました。



今年の初めから、新型コロナの感染が拡大し、私たちの日常生活に大きな影響を与えています。佐倉国際交流基金（SIEF）の日本語講座も例外ではありません。

2月末から通常の教室での対面による日本語指導は中止させていただいており、講座の再開は9月からとなる見込みです。

3月から8月まで約6ヶ月もの間日本語講座が中止されると、日本語が不自由な外国人学習者の皆さんに与える不便や影響は、とても大きいものと思われまます。そこでSIEF日本語講座ではこの間も可能な限り、外国人学習者の皆さんのニーズや要望に応えるべく、さまざまな方法でサポートを続けています。

具体的には、電話や携帯、パソコンメール、郵便など、双方が利用可能な手段によってやり取りし、クラスの特徴や学習者の特性・ニーズに合わせて、柔軟に対応することとしています。

例えば小中学生の学習者には、国語や算数の練習問題を送ったり、休校中に出された課題や宿題を手伝ったりします。（学校の課題の中には作文や地図の学習などもあります）

必要かつ止むを得ない場合は、3密を回避する形で待ち合わせ、指導したケースもあります。日本語の読み書きがある程度できるクラスでは、日本語で書いたアンケート用紙を郵送し、日本語で回答を返送してもらい、それをもとに引続き、日本語学習の問題と答案を郵送でやり取りしているところもあります。

また、大人の学習者からは家に届いた役所関係の書類についての質問や、コロナ関連の生活支援情報についての質問をうけることもあるので、そのような場合には日本語の説明に加え、その学習者の母国語で書かれた情報をメールで送ることもあります。

千葉県の新規新型コロナの感染状況は、5月の後半以降はかなり落ち着きが見られ、5月下旬には緊急事態宣言も解除されました。

しかしながら6月には「東京アラート」が出され、第2波、第3波への備えは欠かせないと言われていています。

私たちとしては一日も早いコロナ感染の収束を願うばかりですが、「リスク・ゼロ」になるのは難しいとされる中、9月の講座再開に向けてリスク回避のための方策を考えるとともに、今回の経験をもとに日本語講座の新しい運営方法についても検討を進める必要があると考えています。

インフォメーション（SIEF 事業）

佐倉市国際文化大学は当初5月開講を6月開講に繰り延べし、22回の講座を維持するべく調整を図って参りましたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、以下の通り変更し開講する予定です。

◆佐倉市国際文化大学

開講日：2020年9月12日（土）

終了日：2020年12月12日（土）

講座回数：13回

詳しい講義日程は、佐倉国際交流基金ホームページ
(<http://www.sief.jp>)に掲載しております。



2019年6月の公開講座より

以下の事業は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、やむを得ず開催中止を決定いたしました。

◆佐倉国際スピーチコンテスト

◆日本語講座のつどい

外国人のための生活相談

近隣にお住まいの外国の方で、生活上の相談で困っている方がいらっしゃいましたら、当基金をご紹介下さい！

電話相談、状況によって面談を。行政などの依頼を受けて、相談員と登録ボランティアが行政や他の外国人支援団体などと協力して、外国人に対する直接支援活動を実施しています。 スペイン語・英語・中国語

時間：10:00～16:00 場所：事務局 他

※事前の予約は、事務局まで（電話・FAX 043-484-6326 メール info@sief.jp）

●● 賛助会員紹介 ●●●●●● 東京さくら学院 ●●●●●●

東京さくら学院は、2016年10月に佐倉市に初めて開校した日本語学校です。

海外から日本の大学や大学院、専門学校進学を目指す留学生や、日本での就職を希望する留学生を受け入れています。学生たちは当校で日本語のみならず、日本社会のルールや習慣、文化等も学んだ後、千葉県内をはじめ各地の大学や専門学校に進学したり、地元企業に就職したりしています。また、近隣で暮らす外国の方も留学生とともに、日本語を学んでいます。

学校を運営する株式会社京櫻は、積極的に地元企業と提携し、特定技能の支援団体として活動したり、人材紹介や行政書士業務等も行っております。今後も地域で活躍できる多くの優秀な外国人材を育てていきたいと思っております。

- 〒285-0817 佐倉市大崎台 3-1-15
- TEL : 043-312-1097
- HP : <https://www.tsa-keio.jp/>
(まもなくリニューアル OPEN 予定)



ご案内



大津絵「釣鐘提灯」
江戸時代 歴博蔵

- ◇国立歴史民俗博物館
第4展示室特集展示「石鹼・化粧品の新現代史」
会 期：2019年12月3日(火)～2020年8月30日(日)
※会期を延長しました。
くらしの植物苑特別企画「伝統の朝顔」
会 期：2020年7月28日(火)～9月6日(日)
※予定通りの日程で開催します。
第3展示室特集展示「大津絵と江戸の出版」
会 期：2020年8月4日(火)～9月6日(日)
※会期を変更しました。

*最新情報は、HP 等でご確認下さい。
れきはくホームページ <https://www.rekihaku.ac.jp>
ハローダイヤル 050-5541-8600

◇DIC 川村記念美術館

- <開館30周年記念> ふたつのまどか
※コロナ禍で、会期変更となりました。
会 期：2020年6月16日(火)～11月29日(日)
開館時間：午前9時30分～午後5時(入館は4時30分まで)
休 館 日：月曜日(祝日の場合は、翌日が休館日となります。)

*当面のあいだ WEB による事前予約制と時短開館となります。
*最新情報は、DIC 川村記念美術館 HP でご覧下さい。



新事務局長よりご挨拶



関口 優紀

本年4月より、佐倉国際交流基金事務局長に就任致しました。

当基金は1988年の創立以来、関係者の方々のご尽力により発展し、一昨年は創立30周年を迎えました。この歴史ある佐倉国際交流基金の今後の運営にあたり、改めて、責任の重さを感じています。

本年、公益法人の活動指針となる千葉県による多文化共生推進プラン2020年～2023年が策定されました。その具体的内容は以下の3点です。

①地域社会とのスムーズな交わり②日常生活に必要な日本語 ③日本の制度や生活に関する情報
佐倉市の在住外国人は増加傾向にあります。イベントなどへの参加も活発になってきましたが、生活習慣、文化等、多種多様であり、日本の生活になじむにも多くの悩み、困惑を持つことは想像に難くありません。

彼らができるだけ早く地域社会に溶け込み、日本での生活を有意義なものにするための協働が必要です。当基金ではこれまでの成人向け日本語学習に加え、最近の外国人子弟の増加に対応して、小中学向け講座2クラスを増設致しました。

また生活相談員制度では外国語を通じた支援を主軸に、「やさしい日本語」での情報発信、サポート活動などを進め、将来的には、外国人市民にもボランティア活動に参加してもらい、ともに作り上げてゆきたいと考えます。

公益法人の役割「不特定、かつ多数の人の利益の増進に寄与する事業を行う」という原点に立ち、事業を推進してゆく所存です。引き続き、佐倉国際交流基金への活動にご理解、ご支援を賜りたく、お願い申し上げます。

事業・収支報告

- | | |
|----------------|---------------|
| 1 国際相互理解推進事業 | 3 外国人支援事業 |
| ○公開講演会 | ○外国人のための日本語講座 |
| ○佐倉市国際文化大学 | ○外国人のための生活相談 |
| ○佐倉国際スピーチコンテスト | 4 その他附帯事業 |
| ○イングリッシュサロン | ○国際交流ボランティア活動 |
| 2 国際交流活動支援事業 | ○後援事業 |
| ○国際交流団体へ助成 | ○国際交流活動等情報提供 |

◇2019年度決算のあらまし（佐倉市よりの受託事業を含む）

収入の部		支出の部	
基本財産運用収入	3,127,817	事業費	7,586,523
会費収入	548,000	管理費	1,402,843
事業収入	5,273,000	経常費用計	8,989,366
雑収入	5,865		
寄附金 他	40,390		
経常収益計	8,995,072	当期一般正味財産増減額	137,770

※ 詳しくは、SIEF HP (<http://www.sief.jp>) をご覧ください。

公益財団法人 佐倉国際交流基金 事務局 (SIEF) 関口・村瀬・松田
〒285-0025 佐倉市竊木町198番地2 レインボープラザ佐倉 2F
電話・Fax 043-484-6326 (月～金 9:00～17:00)
HP: <http://www.sief.jp> Email: info@sief.jp